



地域資源や地域特性を活かした特色のあるまちづくりを推進するため「地域の力(考え)で地域を育てる」地まぢづくりをすすめています。市内各地域の地まぢづくり活動団体によって取り組まれている地まぢづくりなどを地まぢのチカラで情報発信します。

## 《まちづくりお悩み相談・交流会 初開催しました!》

12月3日(日)に開催した本企画。名古屋都市センターに登録いただいている「地域まちづくりアドバイザー」の中から9名ものアドバイザーが、11階まちづくり広場に大集合し、自己紹介を兼ねたトーク&参加者のみなさんとお悩み相談を行いました!

アドバイザーの自己紹介では、経歴とともに「実はラップをやっています。ラップもまちづくりと関係あるんですよ!」など意外な一面も。色々な話に惹きこまれ、アドバイザーって堅そうな響きだけど、面白そうなんじゃない!なんて思われた方も多かったのでは? その後はいよいよお悩み相談。参加者は気になるアドバイザーのブースへ。「公園を使ってみたい」「広報がうまくいかない」…団体によってお悩みは様々。アドバイザーは話に耳を傾けながら、一つずつ課題を整理していきます。絡みあっていた悩みが解きほぐされて、「あれ、実は課題は全然別のところにあったのかも…」なんて気づきもあったようです。



お悩み相談中。複数のアドバイザーから話が聞けるので、視野が広がります!



「悩みなんてないと思っていたけど、考えることがいっぱいだと気づかされた!」と話してくれた参加者の方も!



※詳細は、開催報告レポートを近日公開予定です。名古屋都市センターHPの更新をお待ちください。

## 《星崎学区 防災訓練》

南区の星崎学区は、伊勢湾台風(昭和34年)で甚大な被害を受けるなどの経験から防災意識の高いエリアです。「星崎学区連絡協議会」は、防災講習や避難訓練などを通して地域の方の防災意識啓発・実践活動を実施しています。12月3日(日)は活動の集大成である学区全体の防災訓練。発災想定時刻(朝8時)を過ぎると、住民の皆さんが徐々に星崎小学校へ集まってきました。行われる訓練は全部で10種以上!非常持出袋に入れるものを選ぶコーナーでは「必要だと思うものを釣り堀で釣ってね」と楽しくゲーム形式で学べるように工夫されていて、見ているこちらも楽しい気持ちに。一方、大鍋での炊き出し訓練や、名古屋市協力による給水訓練・仮設トイレ見学など実践的な内容も。世代によって様々な方法で防災のいろはを伝えていました。

訓練終了後には伊勢湾台風経験者への聞き取りを記録(エスノグラフィー)したDVDを視聴。皆さん真剣に聞き入っている様子でした。災害時は地域住民同士の共助が必須。日頃よりこうして顔を合わせて訓練することが、いざ災害が起きたときにすっと助け合える関係性づくりにもつながっていきます。皆さんも、災害に備えて小さな取り組みから始めてみませんか?



### 星崎学区連絡協議会

### 地域の取組み



釣り堀を楽しむ子どもたち



炊き出しは無洗米で



情報班、避難誘導班など担当班ゼッケンを着用



消防団長 会長



消防局の訓練体験も

星崎小学校には津波避難用非常階段があります



各班長らは体育館でエスノグラフィーを視聴。以前行ったアンケート結果についての話なども

### 地まぢチャレンジ まちづくりを行う“人”にフィーチャーしたインタビュー



43人目

藤野直子さんのご紹介  
特定非営利活動法人 東海つばめ学習会  
理事長 柿本 知樹さん

今回お話を伺ったのは、東海三県で無料の学習塾を運営している柿本さん。平日は会社員として働き、休日や平日夜の空き時間に学習塾を開いていらっしゃるという大変パワフルな方です。時折塾に来ている子たちと笑顔で会話を交わしながら、とても柔らかい雰囲気でお話にお応えしてくれました。

愛知県だけでも10か所の教室をお持ちですが、常設の場所があるわけではなくお寺や企業テナントなどが使われていない時間を利用して開講していらっしゃいます。勉強をしたいけれどする機会がない子、行政の支援対象からはこぼれてしまうような子を支援したいと小学生から高校生まで幅広い層を対象にしており、インタビュー中も様々な年代の子が次々に教室へやってきました。

この活動を始められたきっかけは、大学時代に自立支援施設へ実習に行かれた際に感じた「ここにいる子たちは周囲の都合で可能性を狭められてしまっている」という思いや「自分は勉強ができる環境にあるのにその環境を生かしてない」という自身への気づきだそうです。そこから活動を開始して現在6年目。今では塾に来る子どもだけでなく地域とのつながりもたくさん生まれています。塾周辺で店舗を営む方が自身のオリジナル商品に塾への寄付金額を上乗せして販売、その金額を塾へ丸々寄付するなんてこともあったそうです。今年は塾生15名とバーベキューにも行かれたとのこと。子どもは大人よりも狭い世界で生きていて人と触れ合う場合も限定されがちですが、この教室があることで普段知り合うことがない人と出逢うことができ、それが勉強以外の体験や気づきにもつながっています。

今後の目標は、これまで培った学習支援のノウハウを生かして活動地域をさらに広げていくこと。柿本さんの柔らかいお人柄と行動力でどんどん横のつながりが広がり、子どもたちが自らの可能性を広げる機会が増えていくのではないかと感じました。

Q まちづくりに取組んできた中でうれしかったこと

A 人の為になにかしたいと思っている方が沢山いるんだと知ることができたこと。

Q これから取組みたいと考えていること

A 愛知岐阜三重のあらゆるところに学習支援教室を拡充すること。

Q 最後にひとこと

A 一人一人が少しの善意を持ち寄れば社会はもっと良くなります!

